



より人間性の高い 職業人育成をめざして

広島工業大学専門学校
学生部長 北谷 繁行

今年度、学生部重点指導のテーマを、より人間性の高い職業人育成に置いた。人間性の教育といっても一朝一夕では覚束無い。そのため、先ず、日常生活の中の体験を通して学ぶということで、四つの新企画を立てた。

1. グリーン・パートナー
2. ボランティア清掃
3. 一日禁煙日
4. 挨拶週間

以上の四つの中で、1・2は、外に目を向け、自分の周囲や地域社会との関わりを考えると、3・4は、内なる自分に向き合うということに視点を置いている。ごみを拾う、花を植える、禁煙をする、挨拶をする、どれも至極簡単なことであるにもかかわらず、お座成りにされがちなことである。日常、呼吸をするように、自然に物事が出来たならば、柔軟な発想が生まれ、物事を単一的に捉えるのではなく、複眼で物を見、思考するというように、発展していけるのではないかと考えている。

人の「こころ」の問題は、混迷する現代社会の中で、より複雑化しているが、日常生活の中で、経験したことが「こころ」を鍛え、より高く、深い人間性を身に付けることに結びつくと思信している。

グリーン・パートナー

広島市都市計画局緑化推進部の呼びかけによる「グリーン・パートナー」に応募し、平和大通りの花壇で、花苗の植え付けや水やりなどに参加することになった。校舎前面には、平和大

通りの花壇があり、日頃から、四季の移ろいを告げるものとして、目に映る風景であったが、自分達が、その維持管理に関することは、大変意義深いものだった。

平成17年5月18日(水)午後、西区役所前の平和大通り南側の花壇に、学生約50人が集まり、教職員と共に、約1300株のペゴニアの花を植え付けた。当日は、天候に恵まれ、流れ出る汗を拭きながらの作業となったが、学生、教職員共に、懸命に土に塗れ、みるみる花壇は、花でいっぱいになった。これから、水やり、草抜き、又、水やりと作業は続くが、自分達が植え付けた花が、元気に育っていくようにと、日々見守っていききたいと思う。学生達にも、大切に育ててほしいと願っている。



専門学校の場合、2～3年間という短期間に集中して、専門教育を受けるため、やや、教養教育、人間教育にゆとりがないと思われがちではあるが、今回のような試みの中から、学び取る何かを大切にしてほしいと思っている。教育とは、教養育てると書くが、正に、体験に基づく教育は、力強い花を咲か

せることになると思う。

7月には、サルビア、ファリナセア、11月には、パンジーを植え替える予定になっている。平和大通りの近くを通ることがあれば、是非、花壇を眺めながら、この花を育てた学生達にも声をかけていただきたいと思っている。



ボランティア清掃

平成17年5月27日(金)機械工学科の1年生が、平和大通りの清掃をした。生き方講座の授業の一環として行われた。生き方講座は、平成15年度からカリキュラムに設定されているが、自然発生的に清掃活動へと気運が高まった。指導教員からの社会貢献・ボランティアへの意識の目覚めを促す指導もあったが、何より学生自身の意思が、行動に移させた大きな要因である。一口に、奉仕活動といっても、今日のような社会風潮の中で若者には、なかなか難しいことのように、今後、いかに継続させていくかは、学校全体としての取り組みにかかっている。しかしながら、活動後の学生の表情からは、ある種の達成感が見られ、充実した時間であったと思う。

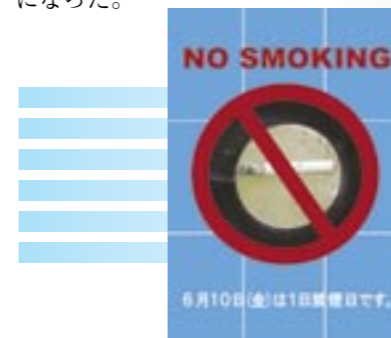


中国新聞 2005.5.28掲載

一日禁煙日

第一、第二と社会奉仕に取り組んだが、第三では、一日禁煙日を設け、たばこの有害性を説き、健康への関心を促した。

WHOは、5月31日を「世界禁煙デー」と定め、厚生労働省は、5月31日～6月6日を「禁煙週間」として、たばこ対策を推進している。本校でも、「禁煙教育」への道筋との位置づけのもと、平成17年6月10日(金)終日禁煙を実施した。事前指導として、学生に、禁煙ポスターの募集、校内放送での呼びかけ、煙害による健康被害のビデオ放映等、当日に向けて取り組んだ。当日は、喫煙室の使用を禁止、灰皿を撤去し、学生、教職員約700名が、たばこを一切吸わない一日を過ごした。煙の無い美しい校内となり、今後又、実施したい行事になった。



挨拶週間

第四の試みとして、平成17年7月4日(月)～7月8日(金)を「挨拶週間」と定め、学生登校時の午前8時45分～9時5分まで、教職員が玄関に立ち、率先して、「おはよう」「おはようございます」等の声かけを実施することになった。朝の一声が、一日の始まりに、いかにめりはりを付け、清々しい気分になるかを、学生に知ってもらい、言葉によるコミュニケーションの第一歩は、挨拶であると認識してほしいと思っている。特に卒業年次生にとっては、社会人の第一歩にも、「挨拶」はと

ても大切なことであるということ、改めて認識してほしいものである。短期間で多くの成果は、難しいことだと思うが、心なしか、校内の空気がたおやかになっていると感じるのは私だけだろうか。

以上四つの企画を通して、学生と親密にふれあうことができた先生は多いと思う。私はその中で、きらりと光る学生の汗と笑顔が眩しく、学生の指導をしながら自分の方が力づけられ、嬉しくなってしまった。美しい笑顔に支えられた気分になった。すべて継続的に実践していきたいと考える。

